社会福祉法人　療育・自立センター

令和６年度
豊親センター　事業報告

（つばさ福祉作業所、チャレンジドセンターつばさ、つばさ児童デイサービスセンター、
第２つばさ児童デイサービスセンター、ヘルパーステーションつばさ）
（期間：令和６年４月１日～令和７年３月 31 日）

はじめに

令和６年度は、事業計画において、当センターの財務状況を踏まえて経営基盤の強化を図ることや、社会福祉法人の使命を鑑みてサービスの質の向上を図ること、そのために人材確保と人材育成などを行うことを明記し、主に以下の項目に取り組んでまいりました。

〇ニーズを踏まえた新規・拡充事業について

・新規事業として、令和６年４月から、第２つばさ児童デイサービスセンターにおいて、事業所の魅力をいっそう高めるとともに、利用者に安心の居場所を提供すると同時に家族の就労支援やレスパイトを進めるため、日中一時支援事業（定員５名）を実施しました。

・令和７年４月から、つばさ福祉作業所において、働きたい人の多様なニーズに応えるよう就労継続支援Ｂ型事業を開始するため、６年度はその作業室の確保を行いました。

・拡充事業として、令和７年３月から、つばさ児童デイサービスセンターにおいて、リハビリ支援を充実させるため常勤の作業療法士１名を配置しています。通所事業所での支援や学校等への訪問支援を通して、地域のリハビリニーズに応えることで、法人理念に沿う「切れ目のない支援」の具現化を図ってまいります。

〇人材育成面に関するマネジメントについて

・令和６年４月から支援現場のＯＪＴ（職場内で実務を通してスキルや知識を教える教育手法のこと）を担う「教育係」を配置しました。新人や経験年数の少ない職員に対する助言・指導を通して、利用者支援の基礎を固めることができており、同時に教育係本人の意識改革やスキルアップにもつながっており、「教育係」は人材育成の仕組みとして機能しました。

・組織目標の共有等を推進しました。利用者の多様性に対応するためには、チーム全体で支援することが求められ、職員個々の力を集める必要があります。そのため、職員に対し、職場やチームにおける目標の設定や共有の重要性の理解を促進するとともに、目標達成に向けてＰＤＣＡサイクルを回しながら仕事を進めていくことの意識づけを行いました。

次年度においても、引き続き、これまでの残課題や様々な状況の変化などに適切に対応してまいります。

Ⅰ．運営概況

１．豊親センターの運営

（１）開所日数(利用者の登所日)、利用者数、出席率(対利用者数)及び稼働率(利用者数×出席率÷定員数)

①つばさ福祉作業所　※利用者数は月初めの人数

R６	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	23	23	22	24	21	21	24	22	22	21	20	22	265
利用者数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	19	---
出席率(%)	89.9	90.3	95.5	93.3	92.6	95.0	93.1	93.2	90.2	94.7	93.1	92.3	92.8
稼働率(%)	80.9	81.3	85.9	84.0	83.3	85.5	83.8	83.9	81.1	85.2	83.8	87.7	83.9

※年度内入所者数　２名　　年度内退所者数　０名

②チャレンジドセンターつばさ　※利用者数は月初めの人数

R６	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	23	23	22	24	21	21	24	22	22	21	20	22	265
利用者数	33	33	33	33	33	33	33	33	33	32	32	33	---
	18	18	18	18	17	17	17	17	17	17	17	15	
出席率(%)	88.3	88.0	88.6	86.9	86.6	89.3	88.8	87.3	86.2	84.4	85.3	88.2	87.3
	88.4	87.2	89.4	86.8	88.2	94.1	90.0	93.0	95.5	92.7	90.6	91.8	90.6
稼働率(%)	116.5	116.2	116.9	114.7	114.3	117.9	117.2	115.3	113.8	108.0	109.2	116.4	114.7
	106.1	104.6	107.3	104.2	100.0	106.7	101.9	105.5	108.2	105.1	102.7	91.8	103.7

※年度内入所者数　１名　　年度内退所者数　４名

※生活介護事業（表上段）就労継続支援Ｂ型事業（表下段）

③つばさ児童デイサービスセンター

R６	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	23	23	22	24	21	21	24	22	22	21	20	22	265
延べ利用者数	170	194	193	197	168	160	196	181	182	171	153	177	2142
	25	17	20	15	14	22	15	15	17	25	12	15	212
１日平均利用者数	8.5	9.2	9.7	8.8	8.7	8.7	8.8	8.9	9.0	9.3	8.3	8.7	8.9

※表上段：デイ(日中活動)利用者数　下段：リハビリ利用者数

④第２つばさ児童デイサービスセンター

R６	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
開所日数	23	23	22	24	21	21	24	22	22	21	20	22	265
延べ利用者数	138	127	120	135	122	131	132	118	118	112	110	124	1487
１日平均利用者数	6.0	5.5	5.5	5.6	5.8	6.2	5.5	5.4	5.4	5.3	5.5	5.6	5.6
日中一時延べ人数	46	63	60	62	48	54	56	54	57	46	46	49	641

⑤ヘルパーステーションつばさ

R６	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
延べ利用者数	38	41	37	45	38	42	33	36	35	30	33	36	444

２．職員の配置等（令和６年４月１日現在）

	つばさ福祉作業所		ﾁｬﾚﾝｼﾞﾄﾞｾﾝﾀｰつばさ		つばさ児童ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ（第２を含む）		ﾍﾙﾊﾟｰｽﾃｰｼｮﾝつばさ	
	正規職員	有期職員	正規職員	有期職員	正規職員	有期職員	正規職員	有期職員
管理者	1		1（兼）		2（兼）		1（兼）	
サービス管理責任者	1		1					
児童発達支援管理責任者					2（兼）			
生活支援員等	4	3	8	7				
児童指導員・保育士					5	2		
支援員（その他）					1			
訓練士						7		
サービス提供責任者							1（兼）	
登録ヘルパー								11
事務職員	1（兼）		2					
看護職員	1（有期職員）							
栄養士	1							
給食調理員	7（有期職員）							
運転手・車両整備	6（有期職員）							
医師	2（嘱託）							
職員総数	正規職員：27名　有期職員：27名　計：54名 ※嘱託医師２名、訓練士７名、登録ヘルパー11名を除く							

※令和６年度　人事に関すること
（入職等）９名
・年度途中採用職員　８名（正規職員４名、有期職員４名）
・育児休業復帰職員　１名（４月より）
（退職）　８名　・年度途中　７名（正規職員３名、有期職員４名）・年度末　１名（正規職員）
（人事異動）　つばさ→チャレンジド（10月より）　１名（正規職員）

Ⅱ．事業実施状況

１．各事業所の状況

科目配置（利用者数・職員数）　　令和６年４月１日現在（人）

	つばさ福祉作業所 生活介護		チャレンジドセンターつばさ			合計
			生活介護		就継Ｂ型	
	手織科	木工科	軽作業Ⅰ科	軽作業Ⅱ科	軽作業Ⅲ科	
利用者数	7	11	16	17	18	69
職員数	3	5	6	5	4	23

（１）つばさ福祉作業所（生活介護事業　定員 20 名）

利用者一人ひとりの障害特性を踏まえた支援を行うことで安定して楽しく通所できるよう努めました。また、働く意欲を培っていくため、手織製品や木工製品づくりを行うとともに、様々な作業にチャレンジできるよう積極的に軽作業に取り組みました。

① 科目ごとの取組

ⅰ）手織科（生活介護事業）

機織機を使った織物づくりを中心に、「ハートコースター」や「コインケース」などの製品づくりに取り組みました。また、もぎりと袋詰め作業や鉛筆キャップの袋詰めなどの軽作業を請負い、一人ひとりに合った作業が提供できる環境を整えることで工賃アップに繋げました。

ⅱ）木工科（生活介護事業）

木工玩具として「夢のメリーカー」や「すずくん」、干支の置物（巳）等の製品づくりに取り組みました。また、引き続き事業者からの注文品（かっさくん）の受注や個人からの特注品（ウッドペイント用など）を受けることができました。

利用者の皆さんが集中して作業に取組めるよう環境を整え、鉛筆キャップの袋詰めなどの軽作業も請負うことで工賃アップに繋げました。

ⅲ）その他の作業

アルミ缶分別作業、地域の回覧板配布作業、墓地清掃・公園清掃作業に取り組みました。

② 入退所者数

＊新入所者数　２名（年度当初１名、年度途中１名）

＊退所者数　　０名

③利用者の区分判定の状況　　※令和７年３月 31 日現在（人）

	未調査	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計
男　性	0	0	1	6	3	3	13
女　性	0	0	0	4	1	1	6
合　計	0	0	1	10	4	4	19

④ その他の取組

＊コロナ禍により実施できていなかった一泊旅行(長島スパーランド)を実施し、利用者の楽しそうな笑顔を５年ぶりに見ることができました。

＊科目ごとに体操等で気分転換を行うとともに、お昼休みや休憩時間などには屋上において気分転換を行いました。また、お花見やレクリエーション(夏祭り(かき氷、ゲーム)、深北緑地公園への一日散策、太間公園など)、つばさ祭、クリスマス会など季節ごとの取組を実施しました。

＊気分転換やリラックスが必要な利用者には、週１回、定期的に近隣の公園への散歩を行いました。

＊肥満傾向のある利用者に対して、減量や健康増進を図るため、週１回ウォーキングマシン等の運動機器を活用した取組に加えて、より効果的な取組とするため太間公園までのウォーキング(週１回)を行いました。

＊ショートステイや医療機関を受診する場合など利用者の通所を支援する「送迎サービス（プラスワン)」を年間 146 回行いました。

＊製菓作業として使用していなかった１階製菓室及び店舗部分を就労継続支援Ｂ型事業の作業場とするため施設改修を行いました。

（２）チャレンジドセンターつばさ

（生活介護事業　定員 25 名、就労継続支援Ｂ型事業　定員 15 名）

利用者一人ひとりの『はたらきたい』という願いに応えるため、軽作業を中心に生産活動の支援を行いました。

① 科目ごとの取組

ｉ）軽作業Ⅰ科（生活介護事業）

軽作業Ⅱ科と協働で、ナンバープレートの取り付け金具のパッキングや、便座の固定金具の組み立て・袋詰めの作業、新たにネジのビニール袋入れの作業も始めました。ウォーキングやリズム体操の時間も定期的に確保し、継続して健康維持に努めました。畳のスペースを活用し、車いすの利用者の方の体位変換やリラックスの場所としました。令和６年度は科目単位のレクリエーションも約３か月に１回のペースで実施できました。

ⅱ）軽作業Ⅱ科（生活介護事業）

軽作業Ⅰ科と協働で、ナンバープレートの取り付け金具のパッキングや、便座の固定金具の組み立て・袋詰めの作業、新たにネジのビニール袋入れの作業も始めました。複数の部屋を活用し、引き続き人が多い環境が苦手な方への配慮等を行いました。作業を継続してすることや、不調で部屋で過ごすことが困難な状態にある利用者は、ドライブや散歩など外出の支援も積極的に行いました。

ⅲ）軽作業Ⅲ科（就労継続支援Ｂ型事業）

ポシェットの糸切り、車の日よけシートや防ダニシートの袋詰め作業、緩衝シート（プチプチシート）裁断作業、菓子箱の仕切り折り作業、菓子類の箱入れやシール貼りなど、様々な作業を確保できました。今年度も年間を通して一定の受注量を確保でき、工賃アップを図ることができました。

ⅳ）その他の作業

地域のアルミ缶分別作業、公園清掃作業、地区の回覧板配布作業、公民館清掃、墓地清掃作業にも取り組みました。

② 入退所者数

＊新入所者数　１名（年度途中に入所）

＊退所者数　　４名（他の事業所へ移られました）

③　利用者の区分判定の状況　※令和７年３月 31 日現在（人）

		未調査	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計
生介	男　性	0	0	4	9	7	3	23
	女　性	0	0	1	3	3	3	10
	計	0	0	5	12	10	6	33
就B	男性	1	2	3	2	0	0	8
	女性	0	1	3	2	1	0	7
	計	1	3	6	4	1	0	15
総合計		1	3	11	16	11	6	48

④ その他の取組

＊科目ごとのレクリエーションとして、年度末の３月には各科目で企画立案し、軽Ⅰはイオンモールでの外食、軽Ⅱはカラオケボックス、軽Ⅲは深北緑地へ行きました。10 月には全体行事として家族会と協働で「つばさ祭」を開催しました。また、日帰り旅行として大型バス２台をチャーターして 12 月に「神戸須磨シーワールド」、２月には「あそびの空間　堺市立ビッグバン」に行きました。事業所全員での取組としてたいへん楽しい行事となりました。

☆ つばさ福祉作業所、チャレンジドセンターつばさ共通の取組

① 工賃の支給

令和６年度　利用者工賃支給状況（R６年４月分～R７年３月分）

対　象	人数（月平均）	工賃支給額（1 人平均月額）
つばさ福祉作業所 （生活介護）	18 人	7,732 円
チャレンジドセンターつばさ （生活介護）	28.7 人	3,078 円
チャレンジドセンターつばさ （就労継続支援 B 型）	15.6 人	10,177 円

※利用者の賞与については、７月、12 月、３月の３回、支給しました。

② 健康管理について

利用者の健康管理や感染症予防を目的に、健康診断を実施するとともに、11 月にはインフルエンザの予防接種に対する補助を行いました。また日々の支援として、口腔内ケア（歯磨き支援）や必要な方へのバイタルチェック等の健康管理を行いました。

利用者の歯科疾患の早期発見・早期治療及び健康増進を図るため、令和５年度に引き続き、歯科検診を歯科医師会の協力を得て実施することができました。

（３）つばさ児童デイサービスセンター

令和６年度は、「しっかり身体を動かして遊ぶ」、「ルールを守って友だちと仲良く遊ぶ」活動を中心に取り組みました。職員一同で創意工夫し、児童たちが楽しくかつ安全に活動できる企画を提供することができました。できるだけ外で活動する機会を増やしてきた結果、今では児童たちから「公園に行きたい」、「お砂場行きたい」という積極的な声が聞けるようになりました。

学齢期におけるリハビリテーションもしっかりと定着してきており、多数の方が利用されました。今後は常勤の作業療法士のもと、より安定したリハビリテーションの実施を目指していきます。

放課後等デイサービス　自己評価結果

保護者向け　アンケート回収 47／90　　事業所向け　アンケート回収 11 部

保育所等訪問支援事業　自己評価結果

保護者向け　アンケート回収 6／6　　訪問先施設評価　　3/3 か所

※上記自己評価はホームページにて公表しています。

（４）第２つばさ児童デイサービスセンター

心身の変化が大きい思春期を迎えた児童が多いため、積極的に身体を動かして遊ぶことを意識して取り組んできました。また、将来（卒業後）を見据えて、より豊かな人間関係を築くために日々の活動の中で、人との距離の取り方について学んできました。長期休暇の企画としては児童たちの要求（希望）をもとに職員と一緒に取り組んできました。また、今年度は日中一時支援事業を実施することで、仕事への向き合い方、余暇の過ごし方、さらに大きな集団として楽しめる活動に取り組んできました。保護者の方々からは反抗期のわが子への接し方、学校や卒業後の進路のことで相談されることが多くありました。それらの相談に応えながら児童一人ひとりの成長、発達を見守ってきました。

放課後等デイサービス　自己評価結果

保護者向け　アンケート回収 14／17　　事業所向け　アンケート回収４部

※上記自己評価はホームページにて公表しています。

（５）ヘルパーステーションつばさ

障害者の余暇支援（休日の活動支援）として、寝屋川市地域生活支援事業の委託を受け、移動支援事業（ガイドヘルパー派遣事業）を行っています。コロナ禍を境にグループ支援の減少など利用形態の変化やガイドヘルパーの確保が困難な状況がある中、利用者のニーズに合わせて事業実施に努めました。

（資料）介護・訓練等給付費

（単位：円）

月	延べ日数	つばさ福祉作業所	ﾁｬﾚﾝｼﾞﾄﾞｾﾝﾀｰつばさ	
			生活介護	就労継続Ｂ型
4 月	1,693	3,869,432 円	6,223,220 円	3,085,553 円
5 月	1,700	3,926,012 円	6,172,941 円	3,042,768 円
6 月	1,665	3,971,873 円	6,093,807 円	3,016,569 円
7 月	1,764	4,264,265 円	6,601,241 円	3,189,468 円
8 月	1,535	3,759,998 円	5,742,671 円	2,685,223 円
9 月	1,586	3,940,186 円	5,851,473 円	2,860,203 円
10 月	1,777	4,399,901 円	6,580,575 円	3,117,410 円
11 月	1,628	4,036,735 円	6,007,613 円	2,961,847 円
12 月	1,620	3,897,501 円	5,881,538 円	3,030,430 円
1 月	1,517	4,531,398 円	5,380,434 円	2,818,530 円
2 月	1,437	4,274,199 円	5,000,874 円	2,613,323 円
3 月	1,595	4,758,907 円	5,798,979 円	2,570,665 円
合計	19,517	49,630,407 円	71,335,366 円	34,991,989 円

月	つばさ児童デイサービスセンター		第 2 つばさ児童ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ	ﾍﾙﾊﾟｰｽﾃｰｼｮﾝつばさ	総　計
	放課後等デイ	保育所等訪問支援			
4 月	1,630,100 円	12,791 円	1,027,170 円	345,970 円	16,194,236 円
5 月	2,313,980 円	70,671 円	1,117,518 円	395,020 円	17,038,910 円
6 月	2,922,319 円	23,295 円	1,011,137 円	341,020 円	17,380,020 円
7 月	3,675,460 円		1,720,825 円	339,540 円	19,790,799 円
8 月	2,423,376 円		1,436,304 円	380,650 円	16,428,222 円
9 月	2,207,443 円		1,375,676 円	411,250 円	16,646,231 円
10 月	2,776,467 円		1,451,269 円	298,140 円	18,623,762 円
11 月	2,587,448 円		1,298,100 円	325,750 円	17,217,493 円
12 月	2,770,399 円		1,347,327 円	327,100 円	17,254,295 円
1 月	2,675,943 円	23,295 円	1,224,592 円	265,900 円	16,920,092 円
2 月	2,448,295 円	47,803 円	1,252,576 円	301,900 円	15,938,970 円
3 月	2,747,202 円		1,670,723 円	344,650 円	17,891,126 円
合計	31,178,432 円	177,855 円	15,933,217 円	4,076,890 円	207,324,156 円

２．施設設備改善（施設内改修・整備及び修繕）

（１）修繕箇所

つばさ福祉作業所 …＞　製菓室及び店舗部分の作業室への改修
厨房冷凍冷蔵庫の更新
リソグラフ印刷機の更新

チャレンジドセンターつばさ・つばさ児童デイサービスセンター
…＞　階段手摺補修

（２）車両・備品関係

送迎車両（トヨタノア８人乗り）購入

３．人材育成について

（１）所内研修の実施

障害者支援についての理解を深めることを目的に、下記のとおり、職員向け所内研修を実施しました。

① 令和６年４月３日（水）　「職員としてスキルアップを目指して①」
② 令和６年４月 11 日（木）　「職員としてスキルアップを目指して②」
③ 令和６年４月 27 日（土）
「新年度を迎えて ～事業計画、施設運営方針、科目運営方針、職員個々の目標～ 」、「給食時の注意事項」
④ 令和６年５月 25 日（土）
「身体拘束(ことばによる拘束)について」、「利用者の個別の支援内容（介助等)」
⑤ 令和６年６月 22 日（土）　「正常性バイアスについて」など
⑥ 令和６年 10 月 26 日（土）　「障害者支援について」
⑦ 令和６年 11 月 26 日（火）、28 日（木）
「救命救急蘇生法研修」、「救急講習(救命入門コース)」～実技(心肺蘇生法・ＡＥＤ・止血法などのケガ対応)
⑧ 令和６年 11 月 30 日（土）　「ヒヤリハットについての基礎知識」
⑨ 令和６年 12 月 10 日（火）　「嘔吐物処理方法について」

※５月、10 月に新任研修を実施しました。

（２）外部派遣研修の実施状況

外部研修に 15 回　延べ 25 人の職員が参加

参加者は職員会議で全職員に伝達し、事業所全体でのスキルアップを目指しました（別紙１参照)。

（３）職員組織体制の整備

各科目にグループリーダーを配置し、定期的にリーダー会議を設定し、各科目の情報共有および支援方法等について議論する場を作りました。また、教育係を配置し、主には新任職員等経験年数の浅い職員を対象に OJT 支援を行いました。

４．家族会との協働の取組について

（１）事業推進委員会の実施

つばさ福祉作業所における自主製品(手織・木工製品)等の新規開発、改良点、価格設定等について、家族会有志等による会議を毎月開催し、多くの意見をいただくことで商品開発に反映することができました。

（２）主な行事

家族会役員との運営協議会(２か月に１回開催)及び家族会総会、定例会を開催しました。

また、10 月 12 日(土)に「つばさ祭」を実施しました。

※「科目懇談会」

つばさ福祉作業所＝９月 14 日(土)に手織科と木工科、合同で実施しました。

チャレンジドセンターつばさ＝軽Ⅰ（10/1）軽Ⅱ（9/18）軽Ⅲ（9/25）に実施しました。

５．地域に向けた取組

（１）ホームページ等の活用

地域や保護者等への情報発信のツールとして､ホームページ内の｢つばさＮＥＷＳ｣を活用しました。

日々の活動をよりタイムリーに発信することで、多くに人たちに取組内容を知ってもらえる良い機会となっています。

（２）販売活動の工夫

＊コロナ禍により定期的な販売活動の機会が減りましたが、アルプラザやイオンモール四條畷、市役所本庁ロビーでの販売活動を実施しました。

＊施設内販売として、家族会定例会での販売や家族会などに対して商品(コインケース)の販売案内を行うとともに、個人からの注文品の作成に努めました。

【令和６年度販売活動実績】

日程	販売活動内容	販売売上実績
６月３日～	カタログ販売	24,420 円
７月６日	あかつき・ひばり園夏まつり	18,980 円
８月 10・11 日	アルプラザ・ウェルフェア‘24	32,402 円
９月 17～20 日	ハート to ハートバザーin ｲｵﾝﾓｰﾙ四條畷	62,940 円
９月 24 日	交野支援学校での販売	3,730 円
10 月 12 日	つばさ祭	18,025 円
11 月２日	摂南大学学園祭	－
11 月	ふれあいキャンペーン	8,600 円
11 月 28 日	市役所本庁ロビー販売	21,420 円
１月 25 日	あいあい祭販売	13,510 円
２月 13 日	市役所本庁ロビー販売	7,640 円
10 月～12 月	干支の置物(巳)	92,400 円
通　年	事業者受注製品作成(からだクリエイト)	137,040 円
通　年	家族会定例会	10,520 円
通　年	施設内販売(個人注文品など)	97,480 円
計		549,107 円

（３）利用者による地域貢献活動

利用者の社会貢献活動として、アルミ缶分別作業を行って得た販売代金のうちプルトップ相当額で車いすを寄贈する取組を行っています。

令和６年度は、寝屋川市社会福祉協議会に車いす１台を寄贈しました。

（４）他団体との交流・連携

＊寝屋川市障害児者福祉施設協議会への参加

～合同研修会等への参加

～「第 19 回あいあい祭」に参加しました。

～「第６回みんなで祝おう！ねやがわの 20 歳」に参加しました。当日は豊親センターから６名の新成人が参加しました。

＊地域貢献委員会への参加

＊共同生活援助事業所（ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ）、短期入所事業所、他の日中活動事業所との連携

～日々の活動において、電話等を中心に情報交換を行いました。

＊イオンスタイル四條畷店におけるイオン黄色いレシートキャンペーンは４月 11 日の贈呈式に参加するとともに、店頭活動は５月 11 日（土）・９月 11 日（水）、10 月 11 日（金）、１月 11 日（土）の延べ５回参加しました。

（年間計 55,900 円の商品券をいただきました。）

6. 苦情受付・苦情解決に向けた取組

・第三者委員会の開催について

① 第三者委員２名：竹本憲司氏・福岡　薫氏

今年度は、第三者委員会を７月９日（火）に開催しました。

＊令和６年度　意見・苦情、事故、ヒヤリ・ハットの年間件数

月	意見・苦情			事故			ヒヤリ・ハット		
	つばさ	ﾁｬﾚﾝｼﾞﾄﾞ	児童デイ	つばさ	ﾁｬﾚﾝｼﾞﾄﾞ	児童デイ	つばさ	ﾁｬﾚﾝｼﾞﾄﾞ	児童デイ
４月	０件	０件	０件	０件	２件	０件	３件	７件	０件
５月	０件	０件	０件	１件	０件	１件	３件	５件	２件
６月	０件	０件	０件	１件	３件	０件	０件	３件	３件
７月	０件	０件	０件	０件	３件	０件	０件	５件	０件
８月	０件	０件	０件	０件	２件	０件	０件	２件	３件
９月	０件	０件	０件	０件	１件	０件	０件	０件	３件
10 月	０件	０件	０件	０件	０件	１件	１件	９件	１件
11 月	０件	０件	０件	０件	０件	１件	４件	４件	１件
12 月	０件	０件	０件	０件	０件	１件	１件	８件	４件
１月	０件	０件	０件	１件	１件	０件	５件	２件	２件
２月	０件	０件	０件	１件	０件	０件	２件	２件	０件
３月	０件	０件	０件	１件	２件	０件	２件	５件	０件
合計	０件	０件	０件	５件	14 件	４件	21 件	52 件	19 件

＜意見・苦情＞（０件）
＜事故内訳＞（23 件）
・車両関係　３件　　・転倒　３件　　・服薬ミス　１件
・盗食　２件　・送迎時の予定確認ミス　２件　・アレルギー誤食　１名
・給食に異物混入　１件　　・利用者の行方不明　１名
・利用者不穏時の物損事故　１件　・食事配膳でのミス　１件
・利用者が他の利用者の持ち物を破損　２件　　・給油カードの紛失　１件
・外出時に薬を忘れる　１件　　・ガイド時に利用者の姿が見えなくなる　１件
・給食配膳時までにご飯が炊けなかった　１件
・作業納品での内容物（ネジ）の納品ミス　１件
＜ヒヤリ・ハット内訳＞（92 件）
・職員に注意喚起、啓発することで防止につながると考えられる事案
→　31 件（報告・連絡ミス、給食の配膳ミス、服薬に関すること、送迎に関わること、洗剤の置忘れ、書類持ち出し管理ミス等）
・利用者に起因する事案
→　61 件（不穏時の物損や突発的行動、利用者の誤食・盗食、転倒未遂等）
＊今年度は、つばさ児童デイサービスセンターにおいて、ヒヤリハット・事故報告についての学習会の機会を持ったことで、昨年度に比べて高い意識を持って取り組むことができました。各事業所、反省点としては、車両関係の事故が減っていないこと、職員間の『ほう・れん・そう』の未実施について等は、今後も意識を高めていかなければなりません。さらには利用者のケガやアレルギー対応食のミス等利用者の命にかかわる事故につながりかねない案件については、今まで以上にしっかりと職員間で気を付けていかなければなりません。

7. 虐待防止・権利擁護の取組

◎虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会の開催
① 令和６年４月 26 日（金）　令和６年度の委員会の概要について
② 令和６年５月 24 日（金）　事例から学ぶ　～和歌山県における虐待事例
③ 令和６年７月 27 日（土）
「動画で学ぶ！障害児者施設の虐待防止研修～より良い支援のために～」
④ 令和６年８月 23 日（金）　同意（コンセント）と境界線（バウンダリー）①
⑤ 令和６年 10 月 24 日（木）　児童デイにおけるヒヤリハットから学ぶ
⑥ 令和６年 11 月 22 日（金）
「法人に関わる方すべてがお互いに尊重する場を創るために」～ハラスメント防止研修～
⑦ 令和６年 11 月 28 日（木）　同意（コンセント）と境界線（バウンダリー）②
⑧ 令和６年 12 月 26 日（木）　社会福祉法人とんぼ福祉会（茨木市）の事例
⑨ 令和７年１月 23 日（木）　児童デイの事例（行動障害の児童の対応）

令和６年度は年間９回の委員会を開催しました。委員会では上記の内容に加えて、各事業所におけるヒヤリハット案件等を振り返り、虐待の芽に対する気づきや配慮について考察しました。委員会で話し合った内容は次の職員会議にて、全職員にフィードバックし、日々の支援業務における虐待防止への意識を高めていくよう努めました。

8. 感染症対策の強化

◎感染症対策委員会の開催

① 令和６年４月 24 日（水）　令和６年度の委員会の概要について

② 令和７年３月 31 日（月）　感染症の状況について　感染症対策研修

◎感染症対策研修の実施

① 令和６年６月　食中毒対策研修（給食調理員対象）

② 令和７年１月　冬の感染症対策研修

上記２回の研修はオンラインでの外部研修を受講し、対象となる複数の職員が学べる機会を設定しました。

③ 令和６年 12 月　嘔吐物処理方法学習会（支援員対象所内研修）

令和６年度は年間２回の委員会を開催しました。今年度より豊親センター全体で感染症対策委員会を設置しました。各事業所代表者に加えて、専門職を委員として配置し、事業所における感染症対策の強化に努めました。

9. 防災に向けた取組

つばさ福祉作業所、チャレンジドセンターつばさでは、災害等を想定した避難訓練を事業所ごとに実施しました（総合訓練１回（９月）、自主訓練２回（５月、３月）、各施設年間計３回）。

また、３月には、地震災害等の教訓を踏まえ、福祉避難所開設シミュレーション（机上訓練）を実施しました。

つばさ児童デイサービスセンター及び第２つばさ児童デイサービスセンターでは、年間３回訓練を行いました。

10. 職員の健康管理および福利厚生について

７月～８月に職員健康診断を、11 月にはインフルエンザ予防接種を実施しました。また、ストレスチェックの実施や、産業医による月１回の健康相談窓口の開設等を行い、職員が健康に働ける環境づくりに心がけました。

11. 学生等実習生の受入状況

介護等体験実習（大阪府社会福祉協議会より）

・摂南大学生　年間 13 名（前期 10 名・後期３名）

Ⅲ．今後の重点課題

１．財政健全化の実現について

令和６年度は、利用者の退所により介護給付費収入が減少し、一方で人件費の増嵩や物価高などによる支出が増加する中、非常に厳しい財政状況となりました。このため、今後は各事業所の経営改善にいっそう努めていく必要があります。

２．ニーズを踏まえた取組の充実について

つばさ福祉作業所における就労継続支援Ｂ型事業の開始に伴い、利用者ニーズを踏まえた事業の特色づくりを進めるとともに、工賃水準を意識して運営していく必要があります。また、日中一時支援事業について、利用者(家族)のニーズを踏まえるとともに、「切れ目のない支援」の提供の観点から、事業の定員及び対象者の拡充に向けて検討を進めることが求められています。

３．人材の確保・育成・定着について

経営基盤の安定・強化を図るためには、財務状況の改善のほか、人材の確保と育成、定着による事業実施体制の確保が不可欠であります。このため、通年採用や高年齢者及び女性による仕事のシェアの推進などにより人材の確保を図るとともに、組織目標の共有、役割分担の明確化及びＯＪＴなどを通して人材の育成を進める必要があります。また、円滑なコミュニケーションやメンタルヘルスの確保などを通して、人材の定着を図る必要があります。

以上

別紙１

令和６年度　職員所外研修について

	日　　時	研　　修　　名	受講人数
1	令和６年５月 9 日、10 日、31 日	OJT リーダー養成研修	1
2	令和６年６月３日 ～７月 31 日	食中毒の正しい知識と衛生管理について	8
3	令和６年６月 13 日	スーパーバイザー養成基礎研修	1
4	令和６年６月 20 日、27 日	障がい児者支援の基本と実践	1
5	令和６年７月	令和６年度　強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践）	2
6	令和６年８月５日	令和６年度　障がい等福祉従事者職員研修（非常勤） ～利用者と支援者の心をつなぐために	1
7	令和６年８月７日 ～９月 25 日	福祉経営と人権 ～福祉経営は契約制度にどう対処するか～	1
8	令和６年８月 16 日 ８月 29 日、30 日	大阪府サービス管理責任者等基礎研修	1
9	令和６年 10 月	令和６年度　強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践）	1
10	令和６年 10 月 18 日～25 日	大阪府相談支援従事者初任者研修２日課程	1
11	令和６年 10 月 31 日	リスクマネジメントに関する視野を広げ、施設でのリスクについて考えます！	1
12	令和６年 11 月 11 日 ～令和７年１月 10 日	感染症の特性と予防対策の工夫を学ぶ	1
13	令和６年 11 月 26 日 令和７年１月 15 日、16 日	令和６年度　大阪府サービス管理責任者等更新研修	1
14	令和７年３月３日・４日	強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)	3
15	令和７年３月 12 日・13 日	強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)	1
		合　計	25 名

※日時の下線については、オンライン研修の受講